
天体観測

長月 夕子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天体観測

【Nコード】

N3360E

【作者名】

長月 夕子

【あらすじ】

22歳の君には分からない、29歳の私の話。

終電なのに電車は混んでいた。皆よく働く。日付はもう、明日だというのに。

改札を抜けてそれぞれの方向へ、帰宅の人々は街に吸い込まれていく。ぼんやりとその後姿達を見送りながら、私も家路に向かう。見上げれば満月が、この春に引越した新築のマンションをピカリと光らせて、完璧な直線を縁取っている。

705の部屋に鍵をさし込む。ところが鍵は何の抵抗もしない。いくらなんでも鍵が抵抗しないのはよくない。私は溜息をつく。また鍵を掛け忘れてるんだ。

ドアを開けると、ベランダからの風が擦り抜けていった。玄関にはどうやってたらこんな風に脱げるのか、スニーカーが好き勝手な方向に転がっている。よけるようにヒールを脱いで、下駄箱にしまう。その中は半分がスニーカーで半分がヒール。ややヒールが劣勢。そうだ、と私は思う。いつの間にか茶碗が増え、コップが増え、歯ブラシが増え、私が仕事へ行く度に見知らぬものが増えていき、この部屋を侵食していく。部屋だけではない。いろんなものがだ。そしてそれに私が含まれるのだからたちが悪い。

ベランダへの窓のカーテンがひらひらと風に揺れていて、赤いTシャツが見える。

「あ！おかえり！」

場違いに大きな声カーテンの隙間から聞こえた。

「見て見てこれ！美紀のクローゼットの中こんなの入ってたよ」
自慢げにさすって見せたのは天体望遠鏡だった。また人の荷物を勝手に漁ったのか。という言葉をすんで飲み込む。小言は無能な部下だけで十分。

「望遠鏡ってプラネタリウムみたく星がいっぱい見えるのかと思ったらさ、全然見えないのなあ。東京が明るいからかなあ。でもさ、

月はすごいぜ。表面ほこぼこ！しかもさ、俺びつくりしちゃったんだけど、月ってすごい速さで動いてんだなあ。ちよつと目を離すとすぐ画面から消えちゃうんだよね。あ、また動いちゃった」

そんなこと知ってる。だってそれ、私の望遠鏡だもん。そんなこと知ってる。だって私、君より7年も長く生きてるんだもん。君がびつくりするくらい世の中が速く動いている事だって知ってる。

ねえ、それとも22歳と29歳では時間の速さも違うのかしら。

望遠鏡でものぞいてみなけりゃ、それが解らないほど遠いのかしら。冷蔵庫から缶ビールを取り出す。ちよつと考えて、それを思いきり上下にシェイクする。相変わらず、すごいすごいと言いながら望遠鏡をのぞく背中にも声をかける。

「ねえ、ビール飲む？」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3360e/>

天体観測

2011年1月16日07時07分発行